



令和6年1月1日現在	
総世帯数	1,363世帯
総人口	2,402人
男	1,150人
女	1,252人

### 梅ヶ枝町の防災避難訓練

町会防災部長

百瀬 隆夫

令和5年度の梅ヶ枝町防災避難訓練は、6月11日(日)にまつもと市民芸術館で4年ぶりに実施されました。当日は雨天でしたが、5名の子どもを含む26名もの住民が参加し、さらには臼井第二地区センター長のサプライズ参加もあり、たいへん有意義な訓練



となりました。

朝9時に訓練開始の合図としてハンドマイクのサイレンを鳴らしながら町内を巡回しました。一時集合場所である「梅ヶ枝町防災会」の旗を掲げてまつもと市民芸術館へ避難しました。今年の訓練のテーマは「段ボールベッドと間仕切り」の組み立て訓練で、松本市危機管理課の指導のもと、二つの班に分かれて行いまし

た。子どもたちも積極的に組み立てに挑戦し、災害時の臨場感を体験できたようです。危機管理課の宮坂防災専門官からは、頭部をヘルメットで守ることと自分の存在をホイッスルで知らせることが重要であるとアドバイスいただきました。また丸の内消防署庄内出張所の係官からは、非常持ち出し物品の一覧表がいざ避難という時に必ず役に立つということ、避難の前に自宅の電気・ガスを遮断することが災害を拡大させないために重要であると指導いただきました。

これからも毎年防災避難訓練の経験を積み重ねて、いつやってくるかわからない災害に備えたいと思います。

### 熟し柿を手にして

中条第二町会

佐々木照子

今年も小さな庭の柿の木に沢山の実がなりました。一本は甘柿の木、そしてもう一本は渋柿の木です。「忙しい」を言い訳にして剪定もさぼってきたので二本の柿の木の枝は伸び放題…。それでも春にはクリーム色の花が咲き、夏には青々とした葉を茂らせ小



さな可愛い緑色の実をつけます。暑い夏が過ぎた秋の気配を感じる頃にはその実が大きいく育ち美味しそうなオレンジ色へと色づくのです。

母はこの甘柿が熟したものがとても好きでした。私が柿を収穫するといそいそと幾つかを両手に抱え母の寝室へと持って行き窓辺に並べて嬉しそうに眺めていました。気づけば寝室のある二階の部屋のいたる所に柿が置かれていてその数を見て母と笑いあったものです。

そんな風景も母が亡くなってからは見ることもなくなり柿が実る季節がきても二階の部屋からオレンジ色を見ることはなくなりました。

この甘柿がなるのを楽しみにしてくださっている近所の皆さまにおすそ分けしてもまだ配りきれず残った柿を今年初めて熟し柿にしてみました。深い赤色になった柔らかかな柿を母の寝室だった部屋の窓辺にちよこんと置いてみます。猫たちも不思議そうに見ています。「これはね、おばあちゃんが好きだった熟し柿だよ」そう言って遠く離れた母に思いを馳せながら冷たく甘い柿を口にした時、母が微笑んだような気がしました。

時の流れと共に変わっていくであろうこの地域の中で、母が愛したこの柿の木が残ってくれることを熟し柿を手にながら願うのでした。



第26回

# 第二地区文化祭



懐かしい歌声 野ぎくの会

第二地区文化祭がコロナ以前のように多くの皆さんが参加し盛大に開催されました。子どもたちの力作をはじめ傑作ぞろいの展示コーナーや、様々な団体が披露したステージ発表は大幅に時間を超え熱気にあふれていました。



しなやかな踊りさくらの会



小さな巨匠の作品展示



やさしい手話による歌



好評だった野菜市



イケメンズによる歌で健康を!!



老夫婦のさんぽ



コラソンによる南米音楽

## 第二地区

### 歴史マップ完成

歴史文化継承委員会事務局

『第二地区歴史マップ』が広報まつもと1月号と共に第二地区内の全戸に配布されました。このマップは令和2年度に発足した当委員会が作成したものです。



第二地区には深志神社をはじめ庶民の心の拠り所として祈りを捧げてきた社寺、観音堂等の文化財が数多くあります。こうした庶民の暮らしに根付いた文化財群が令和4年11月に『まつもと認定文化遺産』とされたことを機に、第二地区内の認定文化遺産を網羅しながらこの地区が大切にしてきた文化財・史跡を解説するマップの作成に取り組んできました。

完成したマップを手に、身近な所に当たり前のようにある文化財の歴史に思いを馳せながら文化財巡りをされてはいかががでしょう。

## すすき川

シャンソンに欠かさないアコーディオンとタンゴに欠かさないバンドネオンは共に「蛇腹楽器」として分類されるが、実は「似て非なるもの」なのだそう。特に、左右両方を動かして演奏するバンドネオンはアコーディオンに比べ音量も大きく、奏者としては蛇腹楽器としてひとくりにされることを嫌うのである。

もう一つ音楽の話であるが4分の3拍子と8分の6拍子も違うものだそう。その違いについての説明を読んでも素人には何のことやらさっぱり解らない。

翻って老生「後期高齢者」という言葉は医療制度に関する法律用語になっており、甘んじて受け入れるが、他人から「お爺さん」とは言われたくない。年齢は物理的なものであり、偽ることはできないが、「お爺さん」という表現は、何か形容詞的でこれまた後期高齢者とは「似て非なるもの」だと思っからである。

そんな訳で今年辰年にちなみ、昇り竜宜しく「生きてる限り青春」を合い言葉に歩んでいきたいと思っ。(川上七)